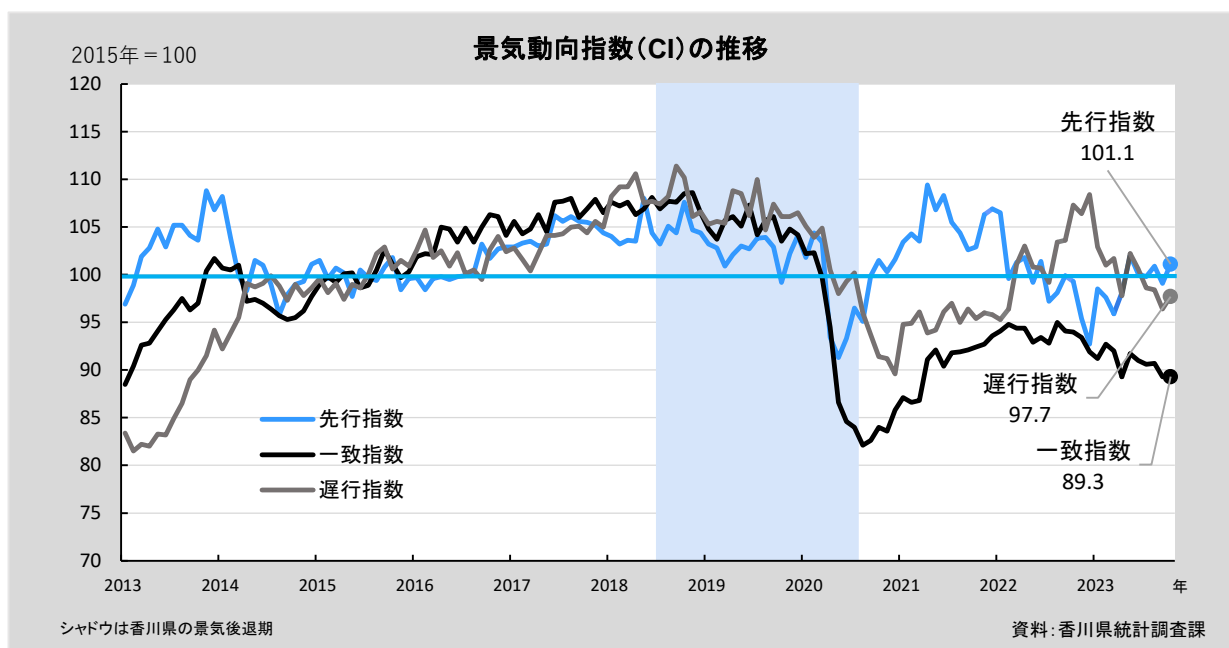


<b>概況</b>	景気は、持ち直している。
<b>個人消費</b>	持ち直しの動きが続いている。
<b>住宅投資</b>	低調に推移している。
<b>公共投資</b>	持ち直しの動きがみられる。
<b>生産活動</b>	横ばい圏内の動きとなっている。
<b>雇用情勢</b>	持ち直しの動きに弱さがみられる。
<b>貿易</b>	輸出、輸入ともに減少している。
<b>観光</b>	持ち直しの動きが続いている。

**景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 前月と同水準**



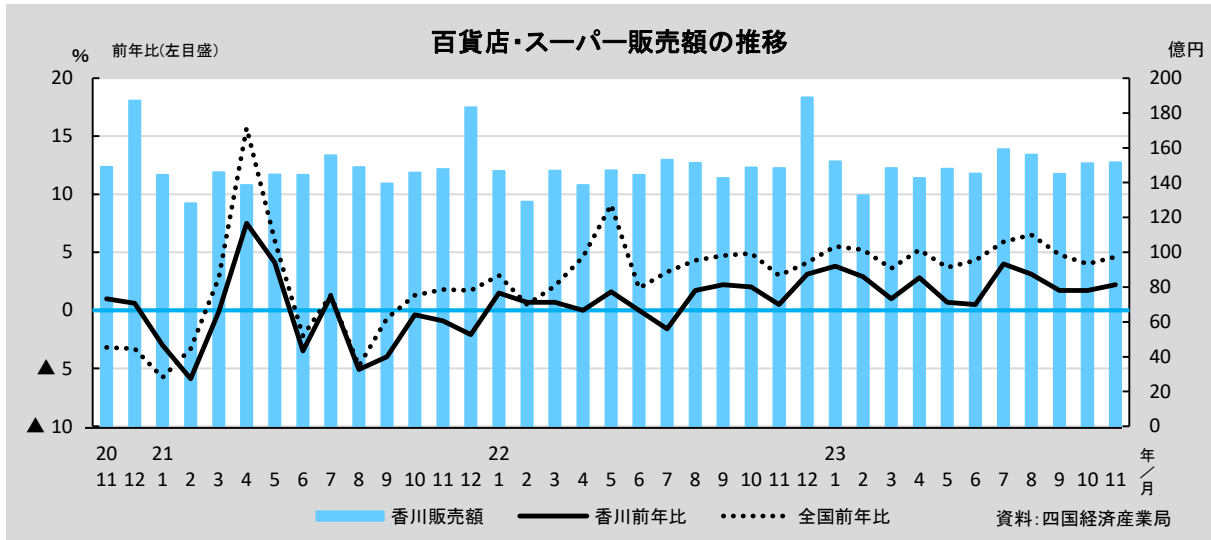
景気の現状をみると、10月のCI一致指数は89.3（前月比0.0ポイント）となり前月と同水準となった。CI先行指数は101.1（同+2.0ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は97.7（同+1.3ポイント）と5カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、建築着工床面積、鉱工業出荷指数の寄与度はプラスとなった一方で、有効求人倍率はマイナスとなった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.07	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.04	1 常用雇用指数	0.21
	2 乗用車新車登録台数	0.87	2 有効求人倍率	▲ 0.65	2 有効求職者数	0.24
	3 鉱工業在庫率指数	0.30	3 所定外労働時間指数	▲ 0.10	3 消費者物価指数	0.71
	4 生産財生産指数	▲ 0.33	4 鉱工業生産指数	▲ 0.15	4 家計消費支出	0.80
	5 新設住宅着工戸数	0.90	5 鉱工業出荷指数	0.40	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.61
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.25	6 建築着工床面積	0.58	6 法人事業税調定額	▲ 0.03
	7 消費者態度指数	0.89	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.09	7 第3次産業活動指数	0.23

●百貨店・スーパー販売額

16 カ月連続増加 ↑

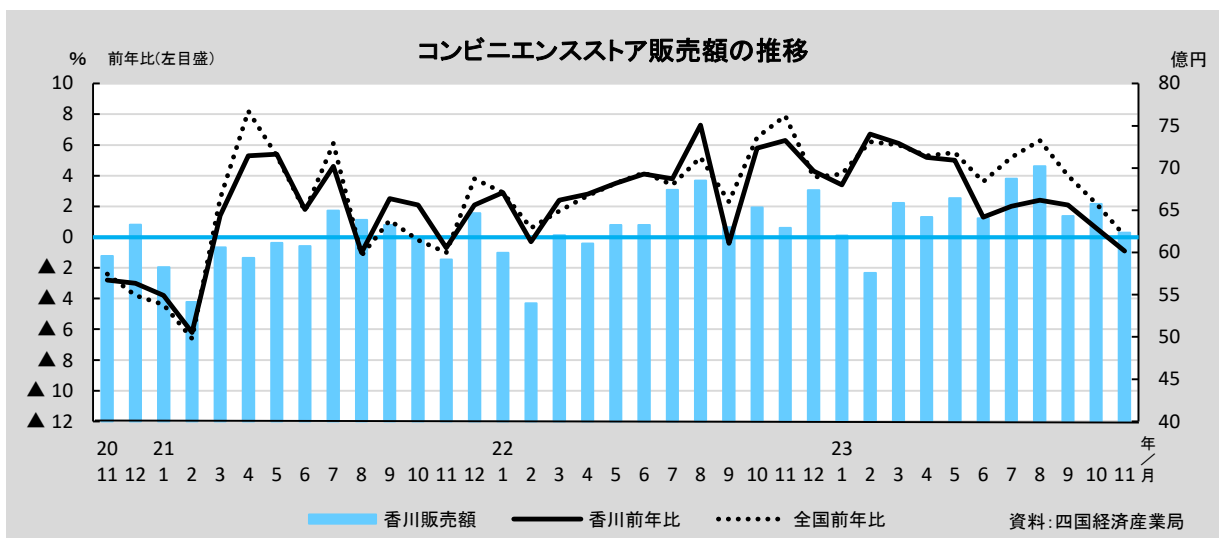


2023/11月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	122,855	61,204	1,107,088	2,853	5,563	67,984	148,265	493	1,516,305
前年同月比(%)	5.4	3.2	1.5	44.5	4.3	160.4	▲19.6	17.1	2.2

11月の百貨店・スーパー全店(85店)の販売額は151.6億円で、前年同月比+2.2%と16カ月連続で増加した。商品価格の上昇や中食需要の定着等により「飲食料品」は同+1.5%と堅調に推移した。「衣料品」は気温低下により冬物の動きがみられ同+5.4%となった。

●コンビニエンスストア販売額

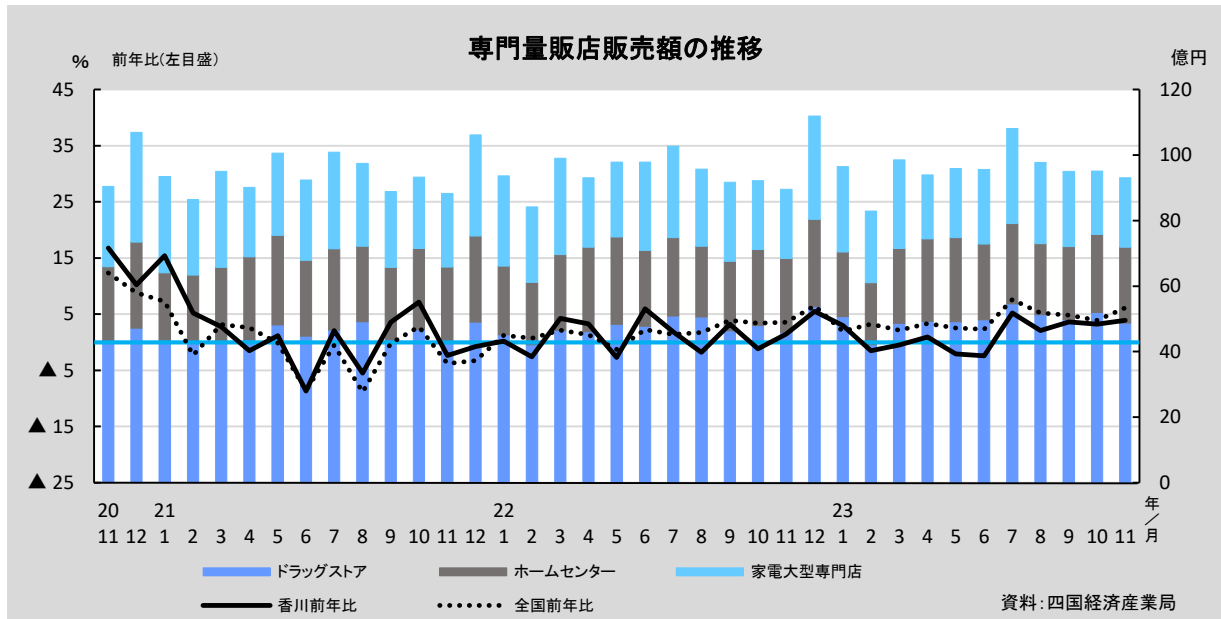
14 カ月ぶり減少 ↓



11月のコンビニエンスストア全店(400店)の販売額は62.3億円で、前年同月比▲0.9%となった。消費者の節約志向や、総菜や衛生用品が伸び悩み14カ月ぶりの減少となった。

●専門量販店販売額

5 カ月連続増加 ↑

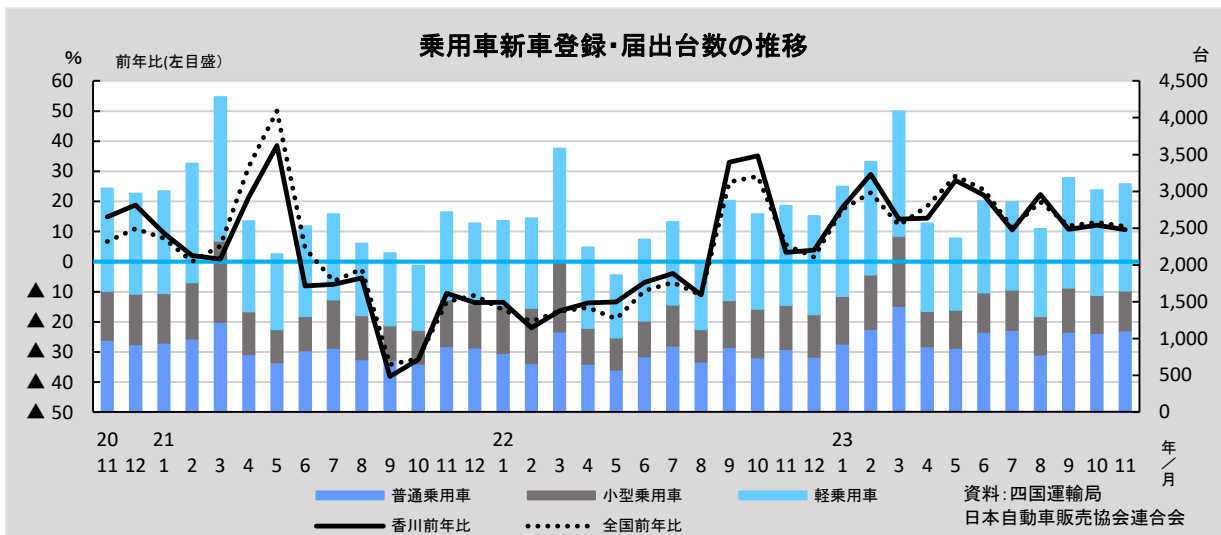


11月の専門量販店全店（216店）の販売額 93.1億円で、前年同月比+3.9%と5カ月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（28店）の販売額は暖房器具が伸長し、21.2億円で前年同月比+0.4%となった。**ドラッグストア**（142店）の販売額は、商品価格の上昇、堅調な冷凍食品・調剤医薬品のほか、化粧品が好調で、48.8億円で同+6.1%となった。**ホームセンター**（46店）の販売額も暖房器具が好調で、23.1億円で同+2.7%となった。

●乗用車新車販売台数

15 カ月連続増加 ↑



11月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は 3,098 台で、半導体や部品不足で低迷した前年からの反動増で前年同月比+10.6%と15カ月連続で増加した。

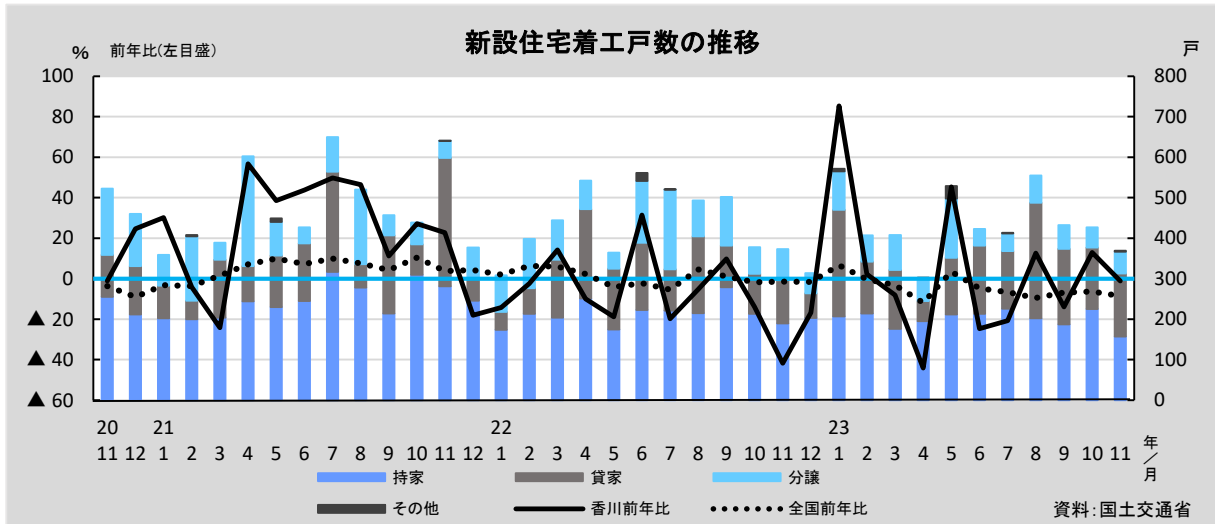
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+29.7%、小型乗用車で同▲10.0%、軽乗用車で同+7.6%となった。

## 住宅投資

低調に推移している

### ●新設住宅着工

2カ月ぶり減少 ↓



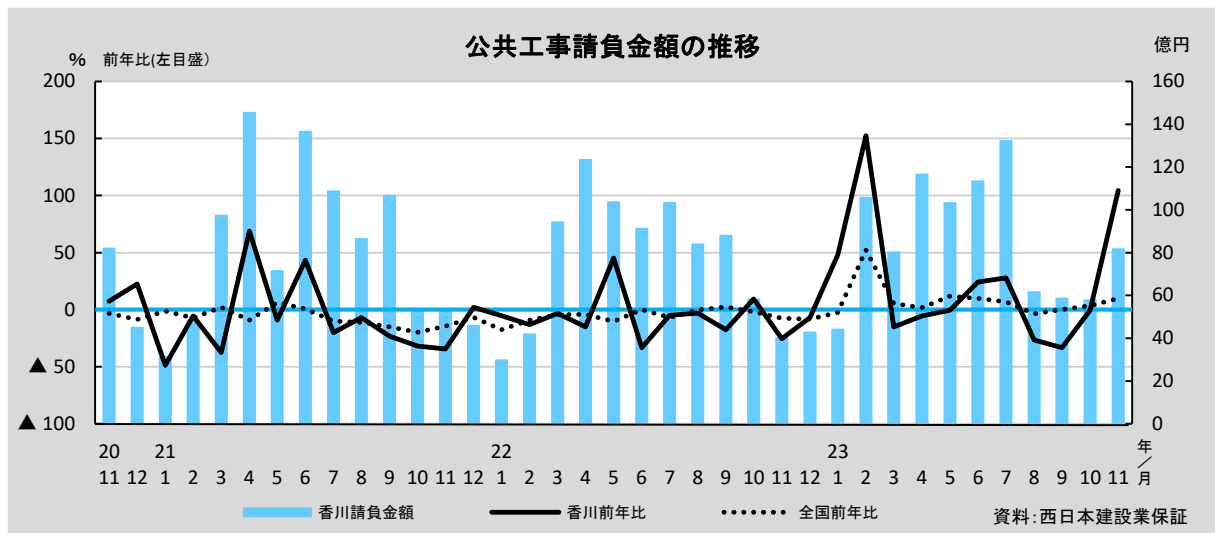
11月の新設住宅着工戸数は369戸で、前年同月比▲1.1%と2カ月ぶりに減少しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲17.4%、**貸家**で同+47.2%、**分譲住宅**で同▲29.9%となった。

## 公共投資

持ち直しの動きがみられる

### ●公共工事請負金額

4カ月ぶり増加 ↑

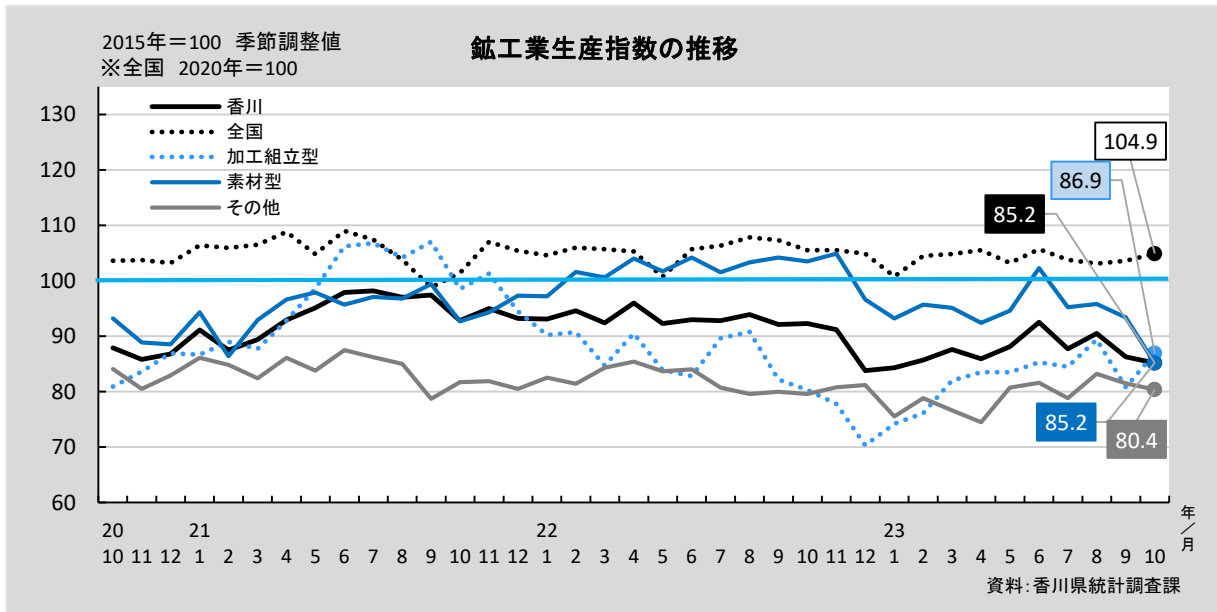


11月の公共工事請負金額は81.7億円で、前年同月比+104.5%と4カ月ぶりに増加しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+490.8%、**県**で同+178.0%、**市町**で同+23.1%となった。

2023.4月～11月の累計では前年同期比4.8%増加している。

## ● 鉱工業生産指数

2 カ月連続低下 ↓

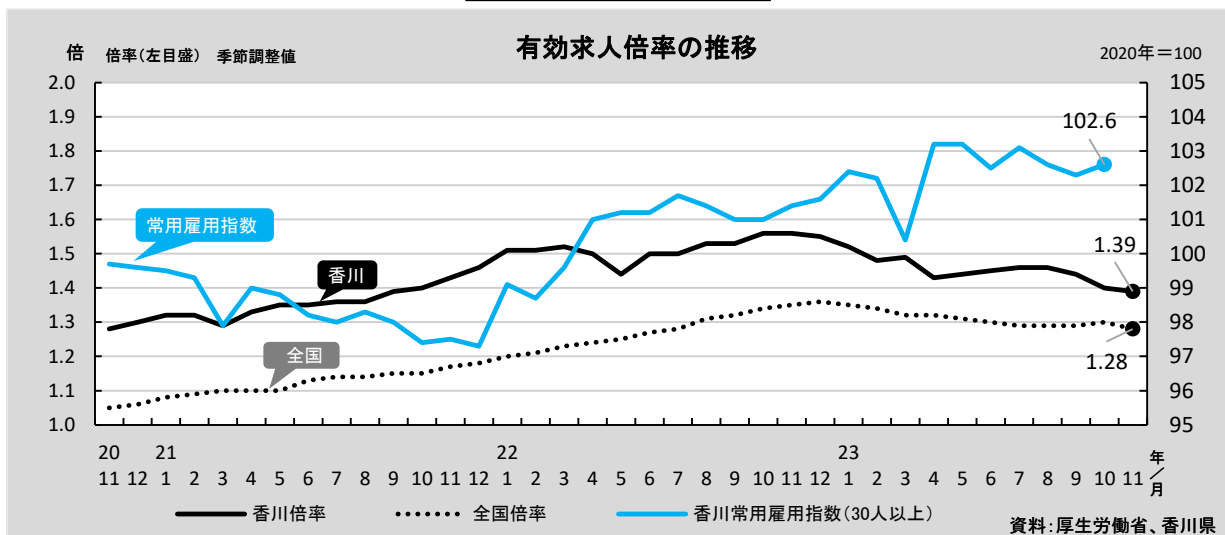


10月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は85.2（前月86.3）となり、2カ月連続で低下した。

業種別では素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比▲23.5%、その他業種の食料品工業（食用油など）は同▲11.7%と低下した。一方、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は同+15.9%と上昇した。

## ● 有効求人倍率

3 カ月連続減少 ↓



11月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.39倍（全国13位）と前月より0.01ポイント低下した。

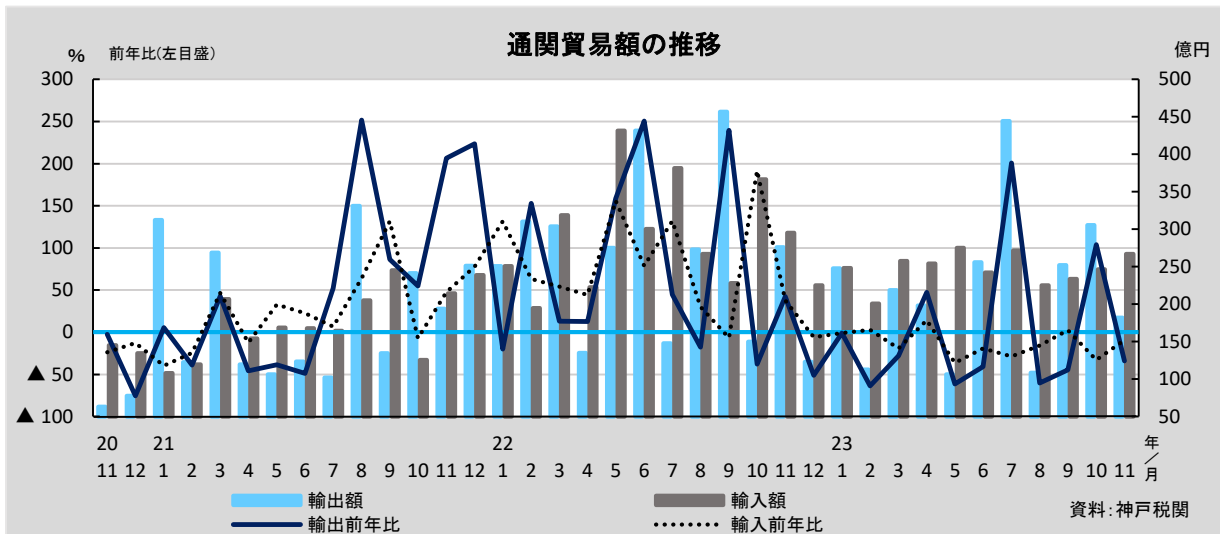
新規求人（原数値：前年同月比）は、サービス業（他に分類されないもの）、建設業、学術研究・専門サービス業等で減少し、全体で▲9.3%と6カ月連続で減少した。

10月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.6となり、前年同月比は20カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業従事者	2.03
事務従事者	0.64
販売従事者	2.63
サービス職業従事者	3.39
生産工程従事者	2.26
輸送・機械運転従事者	2.30
建設・採掘従事者	5.81
運搬・清掃・包装等従事者	1.16

## 貿易

輸出、輸入ともに減少している



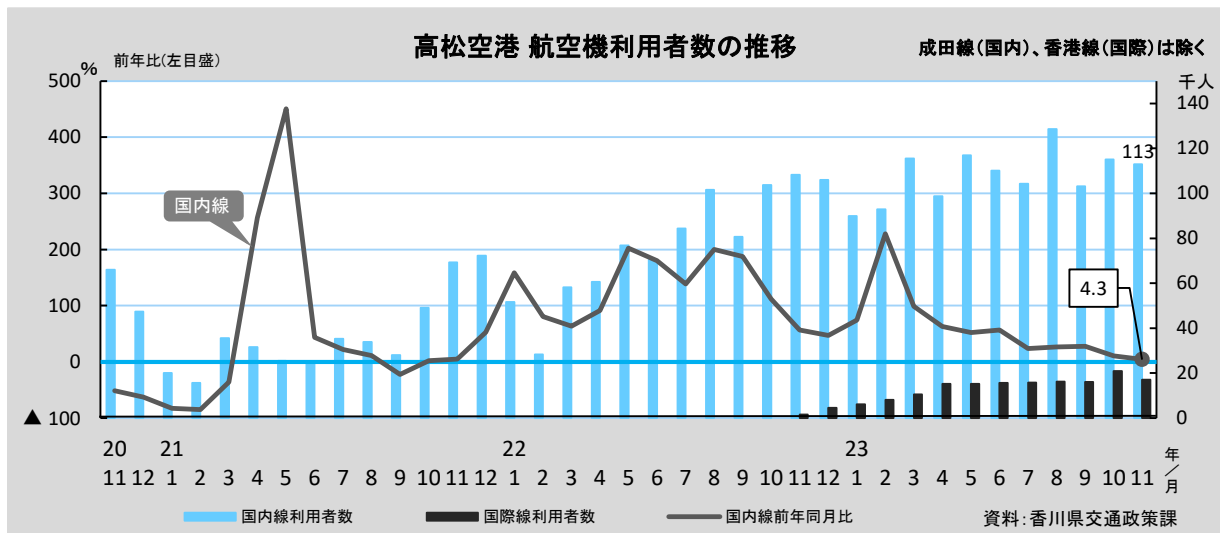
11月の輸出額は前年同月比▲34.0%の182.0億円、輸入額は同▲9.5%の267.1億円となり、差し引き85.1億円の入超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が前年同月比▲36.9%の84億円となった。輸入は、金属製品輸入額が同▲42.1%の15億円となった。

## 交通

国内線は26カ月連続増加、国際線は堅調に推移

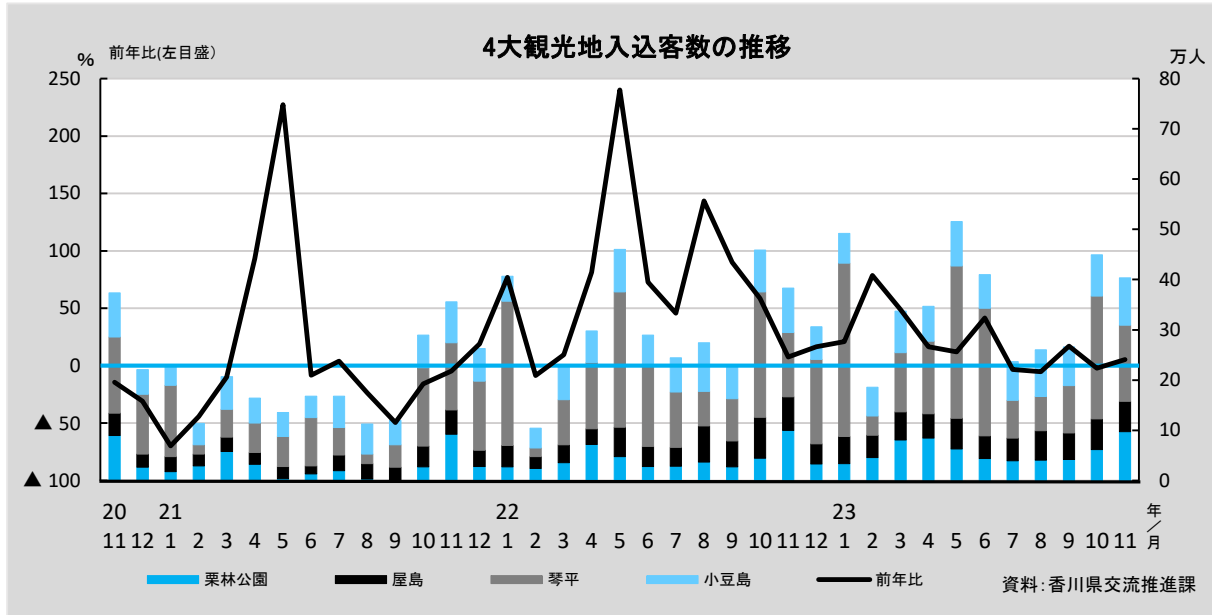
### ●高松空港旅客輸送実績



11月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が112,903人(前年同月比+4.3%)となり、26カ月連続で増加した。羽田線は104,723人(同+3.6%)、那覇線は8,180人(同+13.9%)となった。

国際線は、ソウル線11,316人、台北線5,790人で合計17,106人となり堅調に推移し、コロナ禍前の2019年同月比の9割近くまで回復している。

●主要観光地入込客数

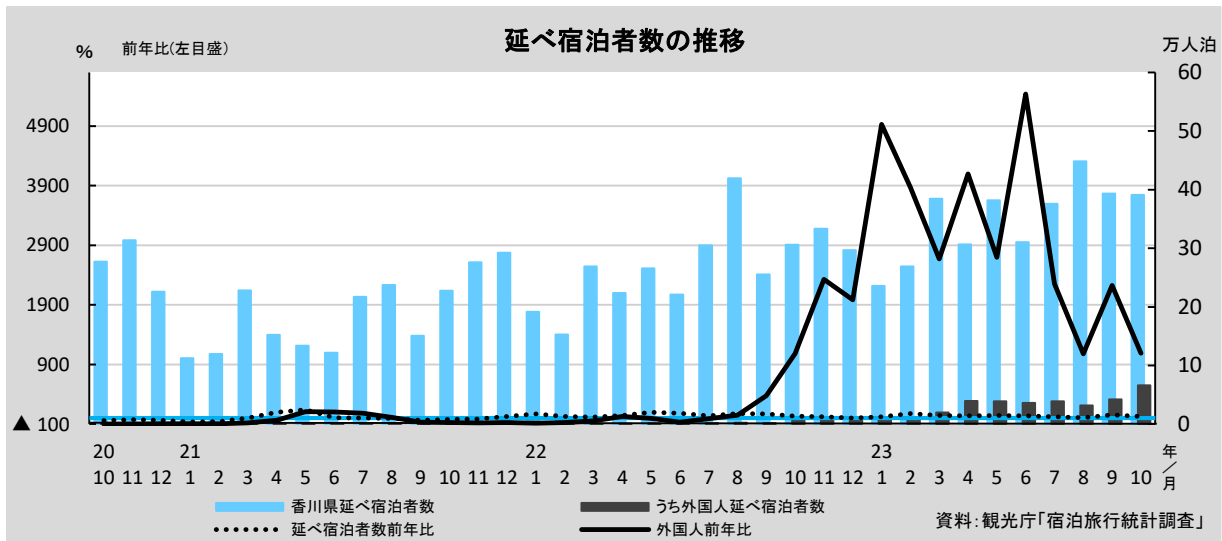


観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
11月(人)	前年同月比	97,175 ▲2.4%	60,350 ▲10.1%	152,000 18.8%	93,821 6.5%	403,346 5.4%
1~11月累計(人)		631,933 34.1%	587,462 8.6%	1,835,000 14.9%	848,091 11.2%	3,902,486 15.7%

11月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+5.4%と2カ月ぶりに増加した。琴平は前年同月比+18.8%、小豆島は同+6.5%と増加したが、栗林公園は同▲2.4%、屋島は同▲10.1%と減少した。

1~11月の累計では前年比+15.7%となった。

●延べ宿泊者数



10月の延べ宿泊者数は391,090人で、前年同月比+27.8%と23カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲16.2%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数66,150人となり、前年同月比+1,089.7%と15カ月連続で増加した。2019年同月比では▲41.3%となった。